

開催地名	京都府城陽市
開催日時	令和7年11月10日(月) 10:40 ~ 12:15
開催場所	城陽市立寺田南小学校 4年生各教室
語り部	武藏野 美和(岩手県陸前高田市)
参加者	城陽市立寺田南小学校の4年生児童・教員 60名
開催経緯	本市、城陽市では、児童が震災について学び知見を広めることにより、防災意識を持って生活を送れるよう、防災訓練の一環で講演会を開催した。陸前高田市の防災士として活動されている語り部、武藏野 美和氏を講師に招き、「震災の体験を聞こう。」をテーマとして東日本大震災についての講演が行われた。
内容	<p>(1) 震災について</p> <p>東日本大震災について、当時の震災・津波の被害により、陸前高田市は海に面している部分が少ないにも関わらず壊滅してしまったまちと言われている。平成23年3月11日、午後2時46分、震度6弱の揺れが、およそ3分続いた。一般知識として地震の起こった時は机の下に隠れて身を守るのが教えだが、震度6以上にもなると、その机自体が支えきれなくなってしまい机ごと室内を端から端まで振り回され、まるで室内がスケートリンクのようになってしまう。そして、その日は指定避難所に逃げ込んだ人々も多く犠牲になってしまった。岩手県の沿岸部はリアス海岸が有名で平らな土地が少ない地形である。その中で陸前高田市は川の河口に三角州が形成されて、まちが作られた。役所や消防署、市民体育館など市の主要な建物が多くあり、そこに居た人たちもたくさん亡くなってしまった。学校管理下において児童生徒は亡くなっていないが、主要な建物で犠牲になった人が多いということはその家族も含まれ、陸前高田市において親御さんを亡くしたいわゆる震災遺児となってしまったのは32名にも及ぶ。朝家族に行ってきますと挨拶をした後、2度と会えなくなってしまったのである。</p> <p>2時46分に地震が起こり、映像アーカイブから堤防を越えたという津波は3時28分に確認できた。そして、その波がわずか38秒という短い時間で、海から2キロの市役所に襲い掛かってきた。人や建物や車など全てを破壊し、凶器となって襲ってきたのである。津波の被害で帰る家がなくなってしまったたくさんの人々は、何ヵ月も避難所で避難生活を余儀なくされた。ただ、その中で人々は知恵を出し合い、助け合い、できる人ができることをするようになった。子供たちも自分にできることを見つけ出し下駄箱を作ったり表札を作ったり、本日1日の出来事を報せるものとして掲示物で壁新聞を張り出したり、意見を聞く御用聞きをして回るなど、少しでも以前の暮らし</p>

に近づけるため、みんなが仲良く過ごせるように工夫をして協力したのである。

### (2) みんなができること

災害とは、地震や津波だけの自然災害だけではなく、人それぞれにある大切なものを奪い、いつも通りの生活を送れなくなること、笑顔でいられなくなること全てが災害であると考えます。その災害の被害を少しでも軽減するために、日常生活の工夫をすること、みんなで協力して守っていくことこそが防災である。自分の大切にしているものは何か。例えば自分の大切なおもちゃなどが、どこにしまっているかわかるように片付ける、近所の人々に挨拶をする。これだけでも防災になるのである。地震が起こった時に「いつものあのおばちゃんがない」と気づいてあげられるだけで人助けになり、防災に繋がる。あの日が最後だとわかっていたらと、後悔しないように毎日きちんと生活し、自分の思いを常日頃から家族に、そして自分の大切な人々に伝えることが大切な事であり、誰でもできる防災活動である。

### (3) 最後に

「ごめんね」や「ありがとう」の簡単な一言が言えなかつただけで、何年も何年も苦しい思いをしている人たちが、まだまだいることを肝に銘じ、より良い明日を迎えられるように感謝の「ありがとう」を伝えてほしい。



開催地より

語り部の方の被災体験談は、実体験が伴っているので、やはり児童の心に深く響いたように感じる。この講演の後に、城陽市に協力していただき「防

	「災フィールドワーク」も実施したので、児童は意欲的に取り組めた。今後の更なる防災意識向上を図っていききたい。
--	--